

エペソの長老たちへの告別説教

2023年4月16日

使徒の働き 20章17～38節

序：キリスト者の成長の度合いはまちまち

信仰において、嬰兒、幼児、少年少女、青年、成年、実年、老年……

パウロが開拓に携わった中で、エペソの教会はアジアでは筆頭、成熟した群れ

3年間労苦し、育んだ 宣教者と教会は主にある強い絆で結ばれていた

第3次伝道旅行の帰路、エペソに寄る時間がなかった v. 16

パウロはミレトにエペソの教会の長老たちを呼び寄せた

：これが地上での合い見える最後の機会だと知っていた V. 25, 38

どうしても、伝えておきたいメッセージがあった（成長した同労者に向かって）

I. 召命に応じて、主に従ったパウロの信仰生活 V. 17～21

(1)エペソがあるアジアにパウロが伝道の足跡をのこした日以来、パウロの言動は彼らに知られているとおり（何も隠し事や過大評価も過小評価もなく）真実

(2)どのように、彼らと過ごしたか？ 主に仕えたか？

①謙遜の限りを尽くして

②涙をもって（自分のために流した涙ではない）⇒ とりなしの祈り

③自分に降りかかる数々の試練の中で（特に、同胞のユダヤ人の陰謀・迫害）いのちの危険に晒されながら

④伝道・宣教の働きに邁進

利他：ほかの人たちの益を図る

積極的：ためらわず、すぐに、直接

教えた：みことばをあらゆる場所（集会、個人、家庭）で、機会を逃さず

宣言：救われるために必要なことは 神に対する悔い改め

主イエスに対する信仰

ユダヤ人もギリシャ人も（万人同じ）

II. 使命を果たし終え、エルサレムに向かう

(1)これから先

①エルサレムに行くのは神のみこころ、だから従う

②聖霊によるあかし＝縄目と苦しみがパウロを待っている

(2)パウロの衷心からの願い（迫害、逮捕、死が待ち受けているとしても）

①自分の走るべき行程を走りきる

②神の恵みの福音を証しする務めを果たし終える

↓

主イエスからパウロが受けた

(3)現状

①パウロとエペソの長老たちが会う最後のチャンス

②すべての人たちの血について責任はない（福音・神のご計画は宣べ伝えた）
聞いた彼らがどう応えるか責任がある 余すところなく

Ⅲ. 長老（監督）たちへのメッセージ

{務め}

- (1) 自分自身と群れの全体に気を配る（神による任命）
羊飼いの主の血によって買い取られた神の教会
牧者は神から見れば、羊でもある
- (2) 教会の内外からの攻撃や誘惑から群れを守る
 - ① 外部から入って来て荒らす凶暴な狼
見た目は、羊のなりをしている／混乱・分裂を引き起こす
 - ② 内部から出る異端
偽りの教え、みことばに反する生活
自分に引き込もうとする（主が贖った人は神のもの、人間の所有ではない）
仲間を増やして勢力拡大を図る

教会に来るのは、神への礼拝が目的ではなく、人を得ることが目的

{勧め}

- (3) 目をさまして、パウロの労苦を思い出してほしい
涙をもって訓戒し続けた（ひとりひとりに）
- (4) 神とその恵みのみことばに長老たちを委ねる
指導者パウロがいなくなっても、彼らを育成し、御国を継がせてくださる
∴ みことばによって群れを養うことに全力を尽くす
- (5) 隣人との関係における模範
 - ① 人の金銭や物質をむさばらない
 - ② 自ら働いて、自分自身の必要と一緒にいる人たちの必要を充たす
cf. 自分と同じように隣人を愛せよ
 - ③ 弱い者を助ける

主イエスのみことばと模範に基づいて 与える > 受ける
福音書には書かれていない

Ⅳ. 別れのとき

- (1) ひざまづいて、ともに祈った（今後のこと、互いの主にある歩みのため）
神に委ねて
- (2) 声をあげて泣き、心を痛め、船まで見送った

Ⅴ. 結び

- (1) 時間的、経済的、体力的に厳しい時でも、主にある愛と熱心は道を開く
- (2) 主に仕えること＋みことばに仕えること＋教会に仕えることが監督の務め
- (3) 救いには罪の悔い改めと主イエスへの信仰が不可欠（伝道の二重点）
- (4) 聖霊の導きには徹底的に従う（苦難や大きな危険があっても）
- (5) 教会の今の深刻な懸念があっても、将来を神とその恵みのみことばに委ねる
- (6) 「受けるよりも与えるほうが幸いである」と信じ、生活において実践するなら
「自分と同じように隣人を愛せよ」が成就される
- (7) 今回が最後になるかも知れないという思い、予感は大切
全力を傾注して、最善を尽くすこと